

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074500259		
法人名	医療法人社団 宗正会		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	福岡県福津市高平11-15		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果確定日	平成23年2月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々の生活能力を把握し、一人ひとりの尊厳を大切にしながら、家庭的な環境の中で毎日を活気があり楽しく穏やかに過ごして頂けるよう、職員一丸となり取り組んでいます。小さな子供達の来訪も時々あり、利用者の方々がとても喜ばれ、今後も継続したいと思っています。事業所内に花や野菜を栽培し、季節を感じ取ってもらえるように支援しています。また、ご家族来訪時や家族会で日頃の様子を報告したり、定期的にすまいる新聞やすまいるだよりを発行し事業所での取り組みを紹介して、ご家族に安心していただけるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体となる、医療法人社団宗正会東福岡病院が近接しており、入居者の健康管理や医療活用に関しての安心を提供している。「すまいる」は、閑静な住宅地の一角に立地する落ち着いた和風の平屋建てとなっており、ゆとりある「住まい」の中で、穏やかな暮らしが営まれている。管理者・職員は、ホーム名の由来や理念のもと、「笑顔」のある豊かな暮らしの実現に向けて、日々取り組んでおり、1ユニットの特徴を活かし、入居者一人ひとりの意向や気持ちに寄りそいながら、極め細やかなサポートができるように支援している。母体病院には保育園が併設されており、子ども達とのふれあいは、入居者の方々の特別の表情を見ることができ、また、職員にとっても、働きやすい環境を提供している。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中で利用者様の心身の状況に合わせ、家事や散歩・体操・野菜作りなどを職員と共にやり、その人らしく充実した毎日過ごす事が出来るよう、安心安全安楽の提供に努めている。	毎月1回、職員ミーティングにおいて理念の浸透を図っている。入居者の過ごし方を検討する場合にも、業務優先とならないよう理念を振り返り、本人本位の「安心・安全・安楽」のある暮らしを実現できるように取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	散歩時など地域の方に会えば、いつも笑顔で挨拶を交わしている。また、町内の草取りには必ず参加し地域のお祭りの竹灯祭りには利用者様の描いた絵を竹灯に飾ってもらい、夜全員でお祭りに参加し、地域の方々と交流している。	町内会の草取りや、地域の祭りである竹灯祭りへの協力・参加を行っている。また、駐車場にホーム行事を掲載し、地域の方の参加を呼びかけている。毎月4～5回、習字や貼り絵等、ボランティアの方の協力があり、入居者の楽しみとなっている。認知症キャラバンメイトとしての活動にも参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福津市主催の認知症啓発事業にて地域の方々に向け、すまいるの日常生活・行事等を紹介し、いつでも来所頂けるよう呼びかけを行った。また、認知症キャラバンメイトの活動にも参加している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の状況や行事報告・安全対策・防災の取り組みについて、報告や話し合いを行った。5月にスプリンクラーの設置工事があり、その報告及び「火を出さない」という職員への意識の徹底を図っている事もあわせて報告した。	運営推進会議の定期的な開催を目標に取り組んでいるが、スケジュール調整などを含め、今後の課題となっている。昨年は家族会と一緒に開催し好評であった。	運営推進会議の定期開催に向けて、関係者間での連携を図りながら、継続した働きかけに期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催するイベント等へは積極的に参加・協力している。市担当者とは運営推進会議にて事業所の実情やサービスの取り組みを伝え、市への質問に市担当者から答えてもらったりしている。日頃から連絡を密に取っている。	福津市が主催する、認知症キャラバンメイト連絡会に加入しており、毎月1回、高齢者サービス課を通じて情報交換を行っている。福津市と連携しながら、グループホーム・小規模多機能型居宅介護施設等との情報交換をすすめている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に抑制廃止対策委員会がありGH職員も委員として会議等に参加している。また、研修にも積極的に参加し、参加出来なかった職員にはDVDや研修資料を回覧し、周知徹底を図っている。	日中、玄関の施錠は行っていない。日常の中では、スピーチロック等について、職員への意識づけを行っている。職員の無記名のアンケートを実施し、支援に向けての意見を出しやすい環境を整え、課題の発見に努めている。法人として、抑制廃止対策委員会が設けられており、全職員への周知徹底が図られている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止マニュアルを作成し、全職員が周知徹底している。虐待についての法人内研修やGH内研修でも職員が再確認をし、つねに意識付けを行うようにしている。		

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や権利擁護の外部研修に参加し、全体会議にて受講者が他の職員に報告を行うなど、職員全体で理解を深めている。必要な人がいれば活用できるような体制作りをしている。	現状として権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、グループホーム協議会や福津市の主催する研修に参加し、資料なども整えている。法人全体の教育研修年間計画にも盛り込まれており、必要時に活用に向けた支援ができるよう体制の整備に努めている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、十分説明をして契約を結んでいる。その際、不安や疑問点を確認し理解・納得をはかっている。また、介護報酬見直しの時期には、家族会等で説明をし、不明な事があればいつでも説明する旨伝えている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口や苦情対応体制について説明している。面会時や担当者会議等で意見・不満・苦情が出た場合、内容に応じてその場での回答や職員会議で検討した後迅速に回答するよう努めている。常に真摯に受け止め対応している。	家族からの意見や要望は、どんな些細なことでも苦情処理ノートに記録し、職員間でのカンファレンスを行っている。意見や要望を大切なものとして捉え、迅速な対応に努めていることが記録からも確認できる。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内の個人面談や無記名の職員アンケートにて意見や提案を自由に出せるシステムがあり、またその回答は文書にて回覧される。それ以外でも常時職員からの意見や提案が出しやすい雰囲気を作っている。	個人面談や無記名アンケートを実施し、職員が働きやすく、生きがいをもって取り組めるように、職員の意見を活かす環境を整えている。有給休暇や勤務時間等についての課題が出され、対応している。また、職員の個人面談では、目標設定や達成度などを話し合う機会も設けている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の個人面談、職員管理シートにて個々の努力や実績、勤務状況の把握を行っている。また、法人内の研修会も活発に行われており、各自が向上心を持って勤務できるよう努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関して性別や年齢等による制限はしていない。料理や園芸など、職員一人ひとりの特技や趣味を活かし、やりがいを持って勤務できるように支援している。得意・不得意分野を職員間で補い合いながら、生き生きと勤務できる体制作りをしている。また、外部研修や資格取得を目指す職員に対しては、勤務調整を行うなど、質の向上に向けて支援する体制がある。	採用に関しては性別・年齢等の制限は行っていない。職員が生きがいをもって勤務できるように、介護福祉士の資格取得に向けた問題集を出したり、勤務調整等によるサポートを行っている。また、法人内に託児所を設けており、子育てしながら勤務できる環境を整え、産休後も安心して仕事が継続できるようにバックアップ体制を築いている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	事業所ミーティング時に、高齢者への虐待や権利擁護等について学ぶ機会を確保している。また、行政で開催されている人権学習にも積極的に参加している。	行政による人権研修への参加や、身体拘束、高齢者虐待防止等の研修が行われている。法人全体として、抑制廃止を宣言し、全職員への周知徹底に努めている。入居者に寄りそうことを大切にし、業務優先とならないように、職員間で意識の統一に努めている。	

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所独自と法人全体で年間を通し計画的に研修を実施している。外部研修は案内を掲示して参加を募ったり、管理者が研修への参加を促すなどし、参加の機会を確保して質の向上に努めている。また、研修受講後は報告書を記入し職員全員が目を通すようにしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、全体研修やブロック別研修へ職員が交代で参加し交流の機会を確保している。また、福津市主催の認知症キャラバンメイト連絡会のメンバーになっており月1回の会合にも参加し、地域の事業者との交流も図っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や入所申込時等にご家族と一緒に来訪された時は、本人の話を聞いたり本人の状況を把握して、安心して入居できるよう支援している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入所申込時等にご家族の不安や思いを聞き、またグループホームの情報も提供してご家族との意思の疎通を図れるようにしている。入所後もご家族へこまめに状況を伝え、安心していただけるように努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・ご家族の要望、必要としている支援を確認し、事業所内で対応を検討し支援に繋げていくように努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に本人の心に寄り添い、人生の先輩であるという尊敬の念を持って接し、日常の関わりの中で信頼してもらえる一人の人間として接するように心がけている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は入所前、また入所後の家族と利用者の関係を熟知しながら双方の様々な思いに寄り添い、話し合いの場を持ちながらお互いの関係を大切にしている。また、花見や地域のお祭りの際はご家族に声をかけ、一緒に楽しんで頂けるよう配慮している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係である家族や友人・知人が来訪された際は、お茶やお菓子・椅子を居室に運びゆっくり歓談できるような雰囲気作りをしている。お帰りの際は、必ず職員がご本人と一緒に玄関までお見送りしている。	センター方式を活用し、一人ひとりの生活暦や習慣等を把握することにより、野菜作りを楽しむ等、これまでの暮らしが継続できるように支援している。各居室はゆとりある広さがあり、家族や友人とのゆっくりとした時間を過ごすことが出来る。	

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者の状態も日々変化するので情報を職員 間で共有し、おやつや時間や様々な時間に円滑 に利用者同士が仲良く過ごせるように努めてい る。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同事業所施設内に移られた時は、出来るだけ 会いに行くようにし、声掛けを行っている。また、 他施設に移られた後も、本人やご家族に会える 機会があればお会いするようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日頃の会話から、一人ひとりの意向を聞くように 努めている。意思表示が困難な方に対しても、 日々の生活状況や表情を汲み取り把握に努め、 ご家族からも利用者本人の思いを聞いている。	センター方式を活用し、入居者の生活暦やこれま での暮らしの把握に努めている。日々の状況や希 望に応じて、その都度、入居者の気持ちにそった ケアを実践できるように取り組んでいる。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所時センター方式を活用し、ご家族に分かる 範囲でこれまでの生活歴を聞き取り記録してい る。また、日常の会話の中から聞いた事を記録 し、職員全員が情報を共有しこれまでの生活環 境やサービス利用の経過等の把握に努めてい る。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	職員が一人ひとりのその時々状態を観察し、 出来る事出来ない事を見極めて支援している。ま た変化があれば日々の申し送りに記録しいつ でも利用者の状態がわかるようにしている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	職員間での個別処遇の話し合い、本人家族の 意向、家族や担当者ケアマネを交えての担当者 会議等を基に、希望に添った介護計画を作成し ている。	3ヶ月に1回、状況に応じて介護計画の見直しを行 いサービスの充実を図っている。本人・家族の意 向を踏まえ、日々の記録等をもとにカンファレンス を実施し、本人本位の計画作成に努めている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のファイルを作成し、日々の様子や状態を 記入して職員間で情報の共有を行っている。ま た、個別記録を基に介護計画の見直しをしてい る。		

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特色である多岐にわたるサービスの提供を基軸に、本人やご家族の状況に応じて可能な限り、要望に応じていけるよう取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの協力で利用者の希望の習字を教えて頂いたり、貼り絵を一緒にして季節ごとの作品を作り、すまいる内に掲示し皆で鑑賞している。また、散歩時に地域の方から畑のお花をいただいたりしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望の医療機関を受診して頂いている。月1回の定期内科受診時は家族と職員が一緒に付き添い、眼科や耳鼻科は家族の付き添いで受診してもらっている。歯科受診は隣の歯科医院受診の時は、職員が対応している。	入居の際に、本人・家族の希望する医療機関を確認している。近接している母体医療法人との連携や、隣接して協力歯科医もあり、家族の協力を得ながら、適切な医療活用となるよう支援している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の病院より週1回定期的に看護師が来訪し、バイタルチェックや体調の観察等健康管理を行い、場合によっては医師へ報告し医療との連携を図っている。また、それ以外でも状態の変化等あれば迅速に連絡を取っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に面会及び医療へ状況確認を行い、早期退院に向けて相談を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と重度化や終末期の指針について家族会で医療機関の医師や看護師を交えて話し合いを行っている。また終末期の医療処置や介護について、ご家族と随時話し合いを持って安心して過ごして頂けるように、職員間で支援の検討をしている。	家族会等において、重度化した場合や終末期のあり方について、医師や看護師を交えて話し合いを行っている。各居室や和室にて、家族の宿泊にも対応している。状況の変化に応じて、関係者間での話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署等の救命救急の講習に参加したり、定期的に事業所内で訓練・確認を行っている。また、マニュアルは職員がいつも目を通せる所に置き、冷静な対応ができるよう取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内では年4回の避難訓練を行い、法人内での防火訓練にも参加している。また消防署にも協力をお願いして避難経路の確認、消火器の使い方の訓練を行っている。地域の方の協力を得られるように働きかけている。	スプリンクラーが設置済みとなっている。ホームでは年4回の避難訓練の機会を設け、また法人内の防火訓練にも参加するなど、定期的に訓練を行い、安心・安全な暮らしができるよう取り組んでいる。	災害時には、近接する母体法人との連携を図ることが出来る。現在、避難訓練に際し、地域の協力が得られるように働きかけている状況がある。今後も引き続き、運営推進会議などの機会も活かし、地域への働きかけを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員への基本的な接遇の研修は月1回の話し合いの時に随時行い、法人内の研修にも参加している。利用者一人ひとりを敬う気持ちを持ち誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日々のケアの中で職員の気になる言動や対応は、その都度、職員本人の状況を見ながら説明している。プライバシーへの配慮は、職員の気づきや意識が重要なため、職員間の話し合いなど意識の共有化に努めている。定期的な研修が実施されている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、職員が出来る限り利用者と会話をしたり触れ合ったりして、本人の思いや希望を表しやすい雰囲気作りに努め自己決定できるように働きかけている。またご家族からも本人の思いを聞き、希望に添えるよう支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は常に「利用者第一」を念頭に置き、業務優先にならないようにしている。一人ひとりのペースを大切に、画一的なケアにならないよう注意を払い希望に添えるよう支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後は自分の好きな服を選び着てもらい、洗面・整髪時は鏡の前でブラシを渡し、髪を整えてもらうよう支援している。髪どめやカチューシャをする方もおり、その人らしいおしゃれを楽しんでもらっている。理容・美容は業者に来て貰っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自の力に合わせて野菜切り・盛り付け・配膳・茶碗拭き等を職員と一緒にやっている。食事の時は音楽を流し、ゆったりとした雰囲気の中で食事が楽しめるようにしている。またさりげなくサポートできる位置に職員を配置している。	お茶を入れていただいたり、モヤシの根切りやゴマすりを手伝ってもらったり、茶碗拭き等に、個々の力を発揮してもらっている。食事は職員も同じテーブルにつき、一緒に食事と会話を楽しみながら、なごやかな雰囲気でした。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事・水分チェックをし、健康状態の把握に努めている。カロリー計算された食事を提供し、水分は食事以外でも朝の体操後・おやつ時・寝る前などにも出し、時にはココアやゆず茶など趣向を変えながら摂取できるよう工夫している。		

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師の指導のもと、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアを行っている。隣が歯科医院ということもあり、本人の希望時などは歯の治療や相談も連絡を取った上で、必要な時は歯科受診の支援も行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを作り、個別のパターンを把握し、定期的に誘導したり、随時誘導したりして各自の排泄状況に合わせて支援している。個別に布パンツ・失禁パンツ・リハビリパンツを使い分けるなど気持ち良く過ごして頂けるよう配慮している。	個別の健康チェック表や排泄チェック表により、状況や排泄パターンの把握に努め、それぞれに応じたトイレ誘導を行っている。食材や水分量、乳製品、運動等により、出来るだけ自然な排便となるよう支援している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックシートにて排便の把握を個別にしている。食事のメニューに繊維質の多い食材や乳製品を出来るだけ使用し、また毎日午前中に運動やレクリエーションを行うようにしている。排便困難な方には内科受診時、医師に相談し指示をあおいでいる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は必ず声掛けをし、本人の希望を尊重している。職員が必ず見守り・介助をし入浴を楽しんでもらえるよう、会話も積極的に行っている。また介護チェック表に入浴した日にはチェックをし、清潔が保たれるよう支援している。	基本的な入浴日は2日に1回としており、1日に4～5名の入浴に対応している。毎日入浴準備を行うことで、個々の希望や状況に柔軟に対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで過ごす方がほとんどだが、体調や気分によっていつでも自室で休息できるように見守りや声掛けを行っている。また、できるだけ日中の活動を促し、生活リズムを整えながら、夜は安心して安眠できるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月1回の定期内科受診時ご家族と一緒に付き添い、医師に把握した日常の変化や異常等を報告し、直接医師より病状や薬の内容を聞き、服薬時の注意や容量の変更を全職員が把握し確実に本人が服用できるように工夫している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや野菜切り体操や習字・貼り絵などを行い一人ひとりの体調や状態に合わせて出来ることや役割を作って過ごしてもらっている。一人ひとりのペースを見守りゆったり過ごしながらも活気のある生活を送れるように支援している。		

福岡県 グループホーム すまいる

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節毎の花見や地域のお祭りなどに行くように計画を立て、車を手配し全員でお弁当を持って外出を行っている。その際にはご家族や地域ボランティアの方にも声をかけ一緒に外で過ごす時間を楽しめるよう支援している。</p>	<p>法人のデイサービスの車を利用し、季節の花見(桜・菖蒲・コスモス)等を楽しんでいただけるように支援している。また、散歩や買い物などについても、入居者の希望や状態にあわせて、個別に対応している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>全員が自分でお金を管理することは難しく、他利用者とのトラブルを防ぐ為にも、家族よりお金を預かり個人別出納帳にて管理している。買い物に行きたい時や外出の際に利用者が必要に応じてお金を使えるように支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の希望で事務室の電話を利用してもらい、難聴の方にはホーンを大きくして聞き取りやすいようにしている。年賀状など全員が出せるように支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングでは音楽を流したり、照明も明るくなり過ぎないように採光との調和を図っている。また、常時季節の花を玄関・リビング・洗面所・トイレに配置したり、季節毎の飾りをして居心地よく過ごせるよう工夫している。汚物の臭い等には全職員が気を配り、消臭剤を使用したり、室内外の清掃も常に心がけている。</p>	<p>全体的に和風の造りで落ち着いた雰囲気があり、リビングは天井も高く開放感がある。また中庭に面していることから日当たりも良好で、ゆったりとくつろぐことができる空間となっている。照明器具にも配慮があり、インテリアとして家庭を感じられる温もりのあるものを採用している。また和室には掘り炬燵が設けられている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者が思い思いにくつろげるようリビングには所々にソファを配置し、そこが歓談の場になったりひと休みする場になったりしている。また、その日の気分によって一人で過ごす事を好まれる場合は、廊下などに椅子を用意し庭を眺めたりできるように支援している。その際には職員が見守りを行っている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室にご先祖様を敬うような飾りつけをされている方々には、お酒や水等のお供えのお手伝いをしたり、本人や家族と相談しながら馴染みの物や家具を配置し、本人が居心地よく過ごせる工夫をしている。</p>	<p>一人ひとりの居室は、家族の宿泊にも対応できる、ゆとりのある空間を有している。和室と洋室の居室があり、入居者の個性や習慣に応じてそれぞれの住まいとしての工夫があった。居室には使い慣れたものや馴染みの品が置かれ、これまでの暮らしが継続できるように配慮しており、居心地よく過ごせる空間となっている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや居室が分からなくなる方もいるので、遠くから見ても分かるように表示した紙を貼っている。失敗などにより混乱が生じた時は利用者の心に寄り添い、残存機能を損なわぬように工夫している。</p>		